

## 2 階

### (1) 格子窓

大天守の 2 階の 3 面には格子窓があり、射撃手が攻撃者を撃ち落とすことができるようになっている。格子の 1 枚 1 枚は幅 13cm、厚さ 12cm ほどで、火縄銃の弾を防ぐのに十分な強度がある。

### (2) 大工の技術

異なる木材を組み合わせて 1 本の天井梁を作る場合、その接続部分は構造上弱くなる。そこで、連結した梁の下側に舟形の留め具アームを付け、接合部を補強している。柱も経年変化で部分的に補修されているものが多く、大天守の随所にさまざまな梁の接合・補強方法を見ることができる。

### 松本城火縄銃コレクション

大天守の 2 階には、松本城火縄銃コレクションがある。地元で火縄銃を愛好する赤羽通重・か代子夫妻から寄贈されたもので、141 挺の火縄銃とその付属品で構成されている。コレクションページでは、その一部を紹介している。

### さまざまな種類の銃器

生産地であった国友（現・滋賀県長浜市）で作られた火縄銃、重さ 16 キログラムの大口徑火縄銃、擬装された火縄銃など、さまざまな火縄銃を収蔵している。また、1575 年の長篠の戦いなど、有名な戦いで火縄銃が決定的な役割を果たしたことを説明するパネルも展示されている。

### 発射機構

火縄銃の発射機構がどのように作られたかを紹介する展示がある。さまざまな種類の火縄銃を分解して、その複雑な部品の組み合わせがわかるようになっている。

### 甲冑・装備品

16 世紀当時の鉄砲隊の代表的な鎧や装備を展示している。腰には刀、腰には弾倉、肩には瓢箪型の火薬筒、背中には槊杖と、万全の体制で戦いに臨む武士の姿が描かれています。火縄銃も含めると、その重さは 20 キログラム弱になる。

### コレクションに関連したイベント

#### 火縄銃射撃演武会

松本城鉄砲隊は、春と秋の年 2 回、城内で射撃の実演を行っている。鉄砲の装填や発射の様子を見ることができ、16 世紀の戦場がどのようなものであったかを想像することができる。

## **年 1 回のガイドツアー**

毎年 9 月に特別ツアーを開催している。日本の銃器の歴史を学び、松本城鉄砲隊の指導のもと、本物の火縄銃を扱うことができる。

これらのアクティビティの詳細については、イベント情報のページをご覧ください。

## **二の丸御殿跡の発掘調査**

1979 年から 1984 年にかけて、二の丸御殿跡で発掘調査が行われた。二の丸御殿は城主の居住空間であると同時に行政の中心でもあり、発掘された遺物は松本城の日常生活の一端を物語っている。

### **塩壺**

高級品であった焼き塩を調理・保存するための陶製の壺。銘文から、明治時代まで塩の産地であった大阪府の西南部で生産されたことがわかる。陶磁器の質感から、1726 年以降に使用されたものと推定される。

### **食物関係の遺物**

二の丸御殿跡からは、貝類や魚類・哺乳類・鳥類の骨など、さまざまな動物の遺骨が出土している。ブリやタイなど、日本海や太平洋で獲れた魚が松本まで運ばれてきたものもあったようだ。

### **古銭**

発掘調査では、合計 119 枚の硬貨が発見された。1637 年、松本城主・松平直政（1601-1666）は幕府から特別に許可を得て、松本で銭貨を鑄造したが、二の丸御殿跡からは一枚も出ていない。